

若年層の住み替えに関する アンケート調査の結果

調査概要

調査対象：札幌圏に住む20～44歳の既婚者のうち、今後住み替え意向のある方

調査方法：WEBアンケート調査（モニター調査）

調査期間：平成28年11月2日～平成28年11月7日

回収結果：306サンプル回収

結果のまとめ

①若年層の住み替えについては、20～30代と40代では住み替えの動機やニーズが異なる。

20～30代：世帯の変化に応じた住み替え。家族構成にあった住宅と便利な環境を求めており、子育て環境を重視（3年以内の予定が多い）

40代：よりよいライフスタイルを求める住み替え。豊かな住環境や老後に必要な環境を求めている。（5～10年以内の予定が多い）

→ターゲットのニーズに合わせた情報提供や支援が必要

■ 20才～24才 ■ 25才～29才 ■ 30才～34才
■ 35才～39才 ■ 40才～44才

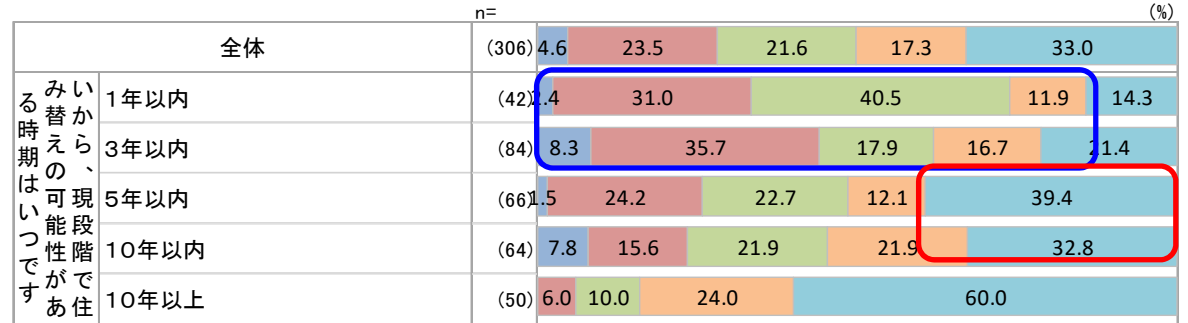


図1 住み替えの予定時期(年齢別)

■ 20才～24才 ■ 25才～29才 ■ 30才～34才
■ 35才～39才 ■ 40才～44才

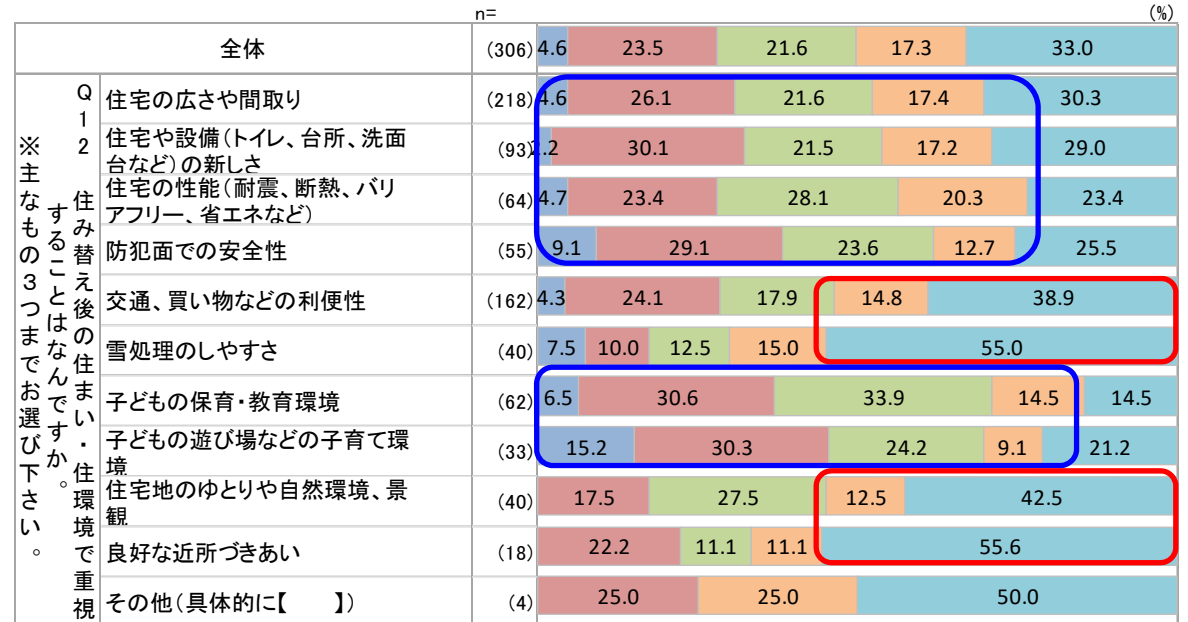


図2 住み替え時に重視すること(年齢別)

② 住み替えに必要な支援は、様々な属性によらず共通しており、費用負担の支援、物件情報、子育て・教育環境に関する情報が必要。

→ **北広島団地への若年層の住み替えを促進するために、費用負担（補助拡充、補助制度の情報提供等）、物件情報、子育て・教育環境に関する情報などを重視した情報提供が必要**

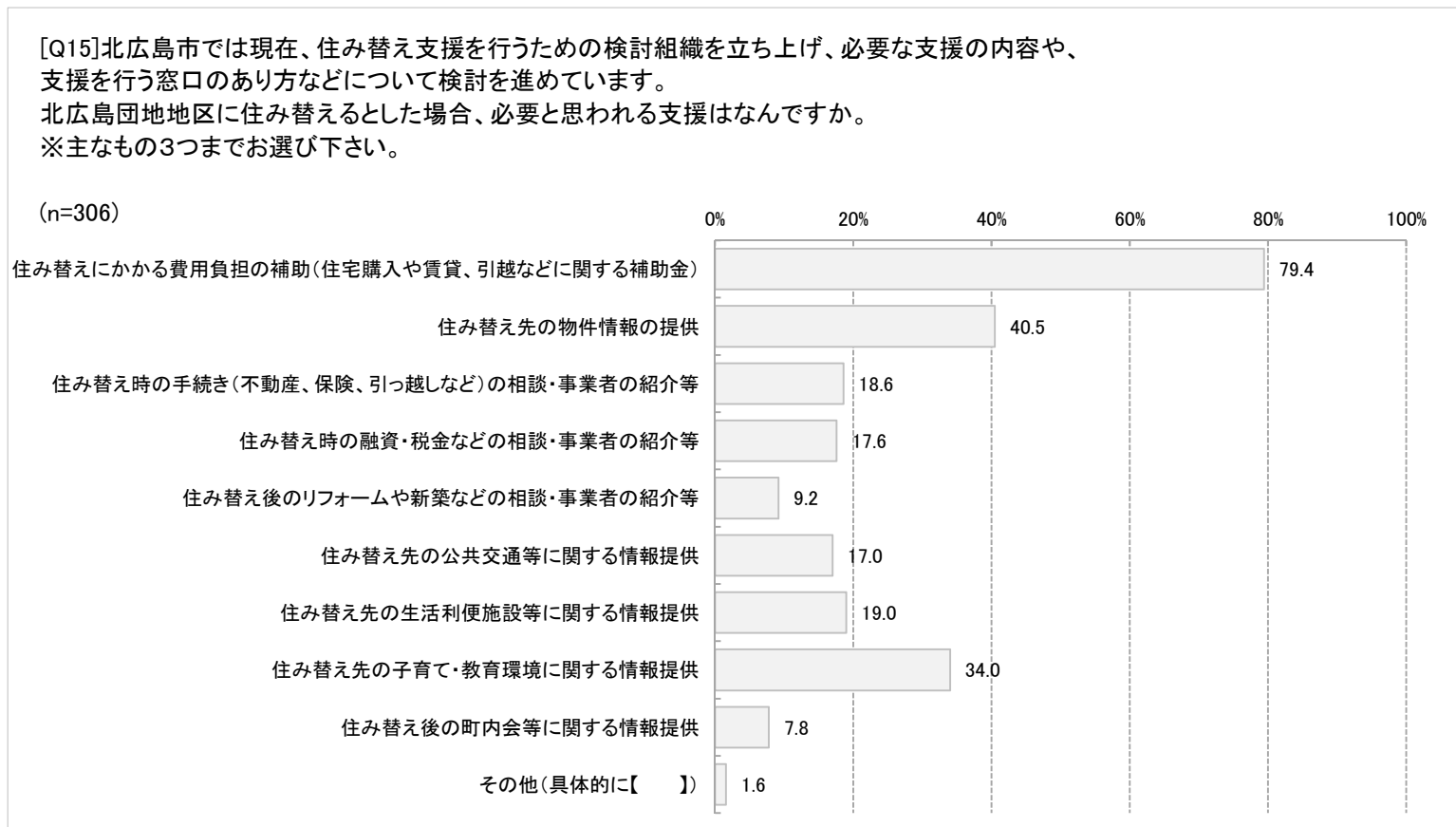


図3 北広島団地地区に住み替えるとした場合、必要な支援

③必要な支援が実現した場合、住み替える意向は少数だが、条件があえば住み替える意向は約4割見られ、40歳未満の家族世帯、5年以内の住み替え予定が約6割、持ち家への住み替え希望が約半数などの特徴がみられる。また、住み替え意向を促進するため、優位性のある住環境のPRや子育て環境の改善・PR等が必要。

→条件があえば住み替えたい世帯の特徴やニーズをとらえた住み替え支援の取組の検討が必要であり、豊かな住環境のPRや子育て環境の改善・PRなどが必要。

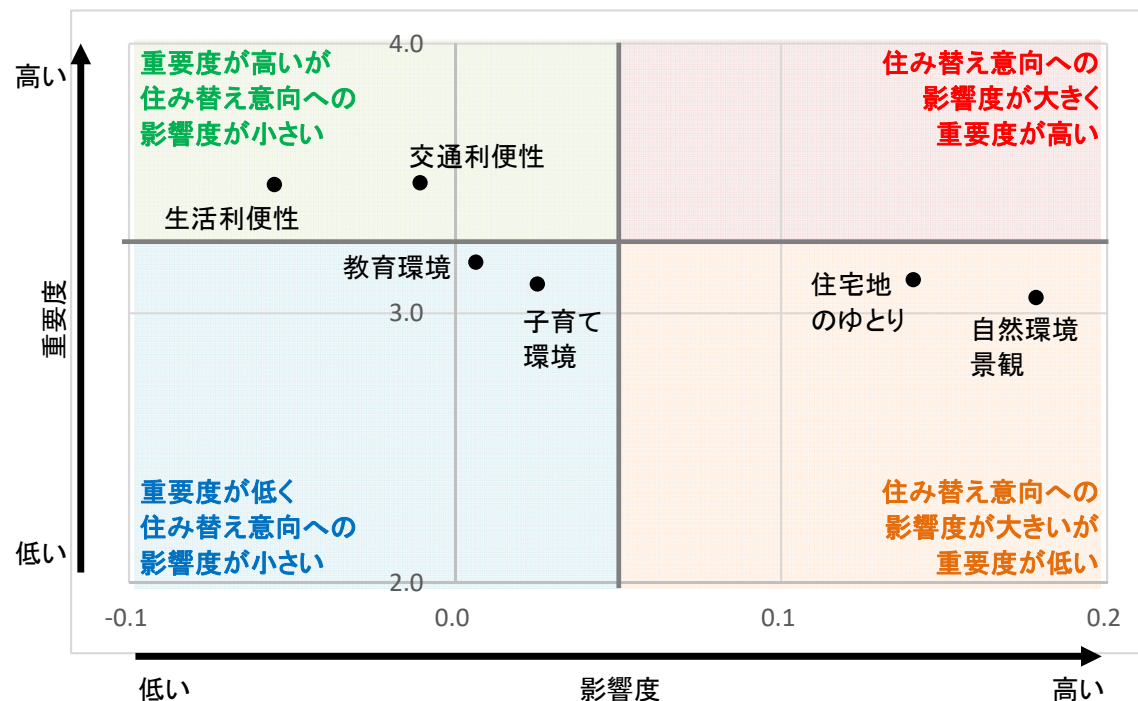


図4 北広島団地地区に住み替える場合重視することと住み替え意向の関係(CSポートフォリオ分析)

1. 回答者について

- ・ 30歳未満が約3割、30代が約4割、40～44歳が約3割。
- ・ 夫婦世帯が約3割、家族世帯が約6割で、3～4人の世帯が多い。
- ・ 札幌市に居住する世帯が約6割、札幌市以外が約4割。
- ・ 子どものいる世帯が約7割で、最年少の子どもが幼児の世帯が約半数。
- ・ 世帯の年収は200～600万円が約6割。
- ・ 民間賃貸住宅に6割以上が居住し、マンション・アパートがそれぞれ約3割。また、持ち家は約2割。
- ・ 間取りは2LDKが約4割、3LDKが約2割。

2. 住み替えに関する意向

①住み替えの時期

- ・ 1年以内が約1割、3年以内が約4割、5年以内が約6割。
- ・ 20～30代・小さい子どものいる世帯は3年以内が多い傾向。

② 住み替え先の希望

- ・札幌市が約7割、江別市、千歳市、恵庭市、札幌圏以外の道内、道外がそれぞれ約1割で、北広島市は全体の約3%。
- ・若いほど札幌市を強く希望し、30～40代は札幌近郊、道内、道外を希望する傾向
- ・札幌市、千歳市に住む方は比較的市外への住み替え希望が多い傾向

③ 住み替える理由

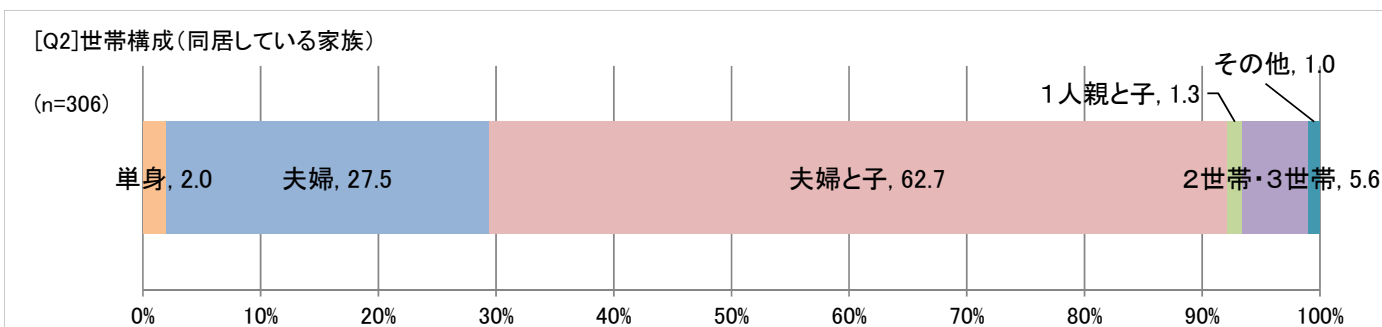
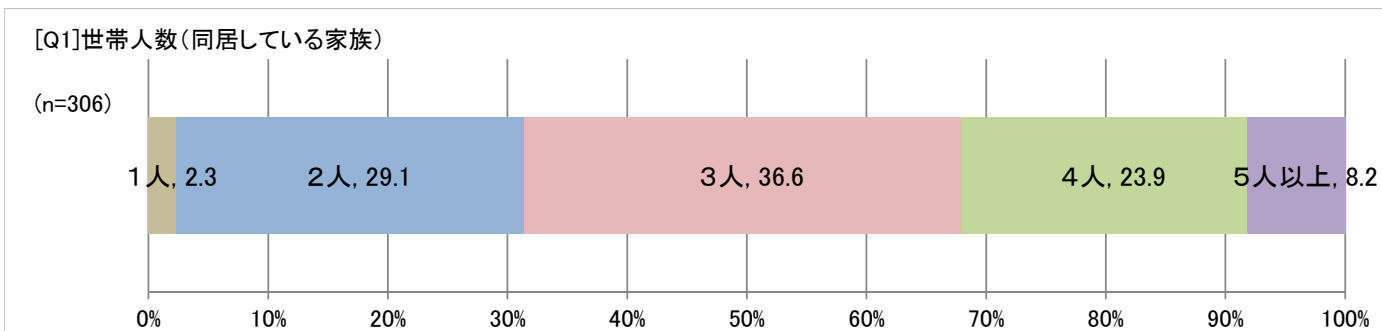
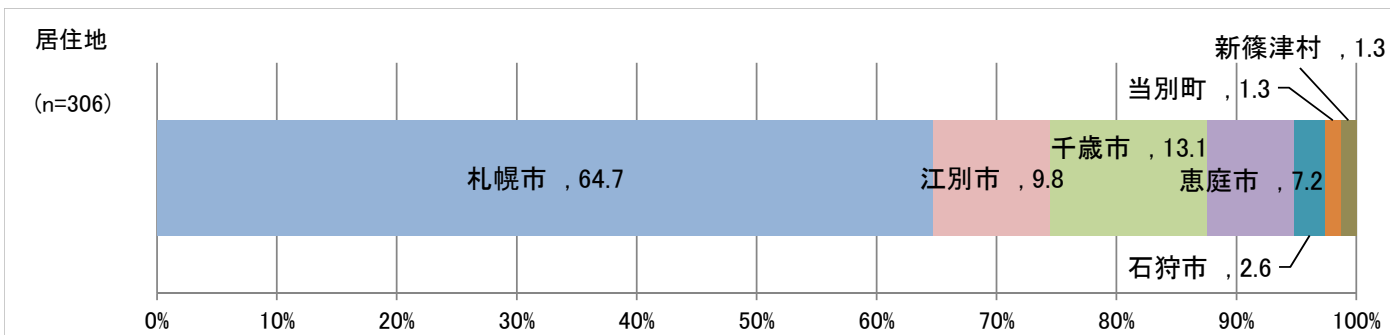
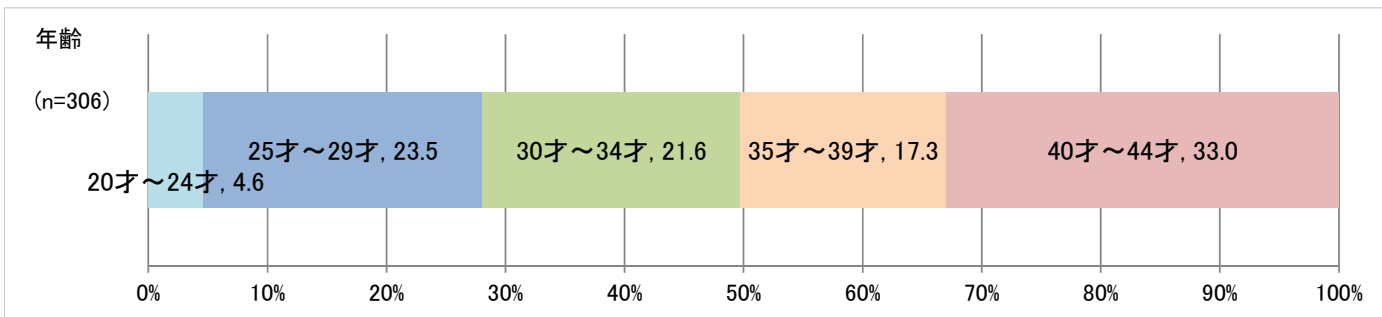
- ・家族構成の変化（約4割）、家が狭い（約3割）、転職など（約3割）が主なものの。

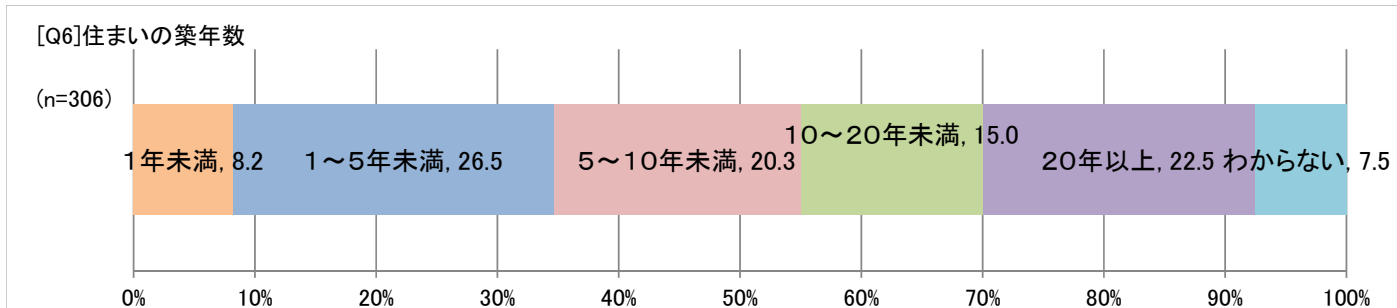
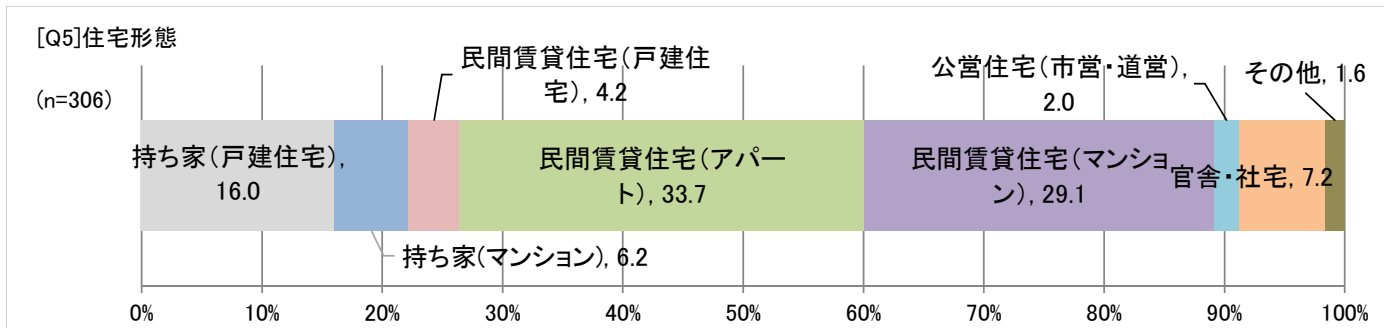
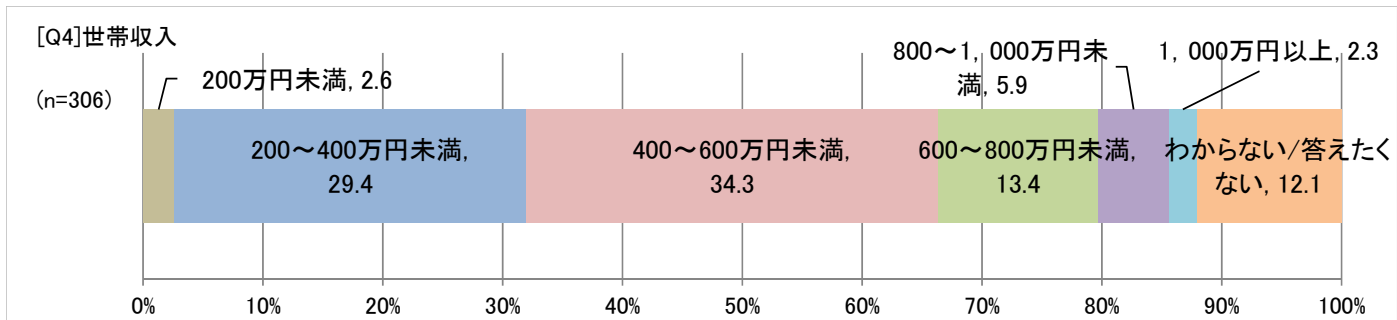
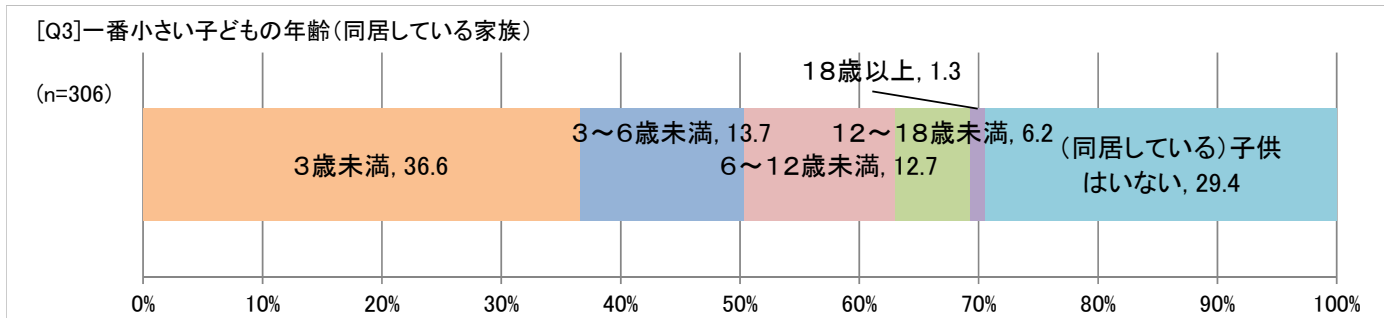
④ 住み替え先

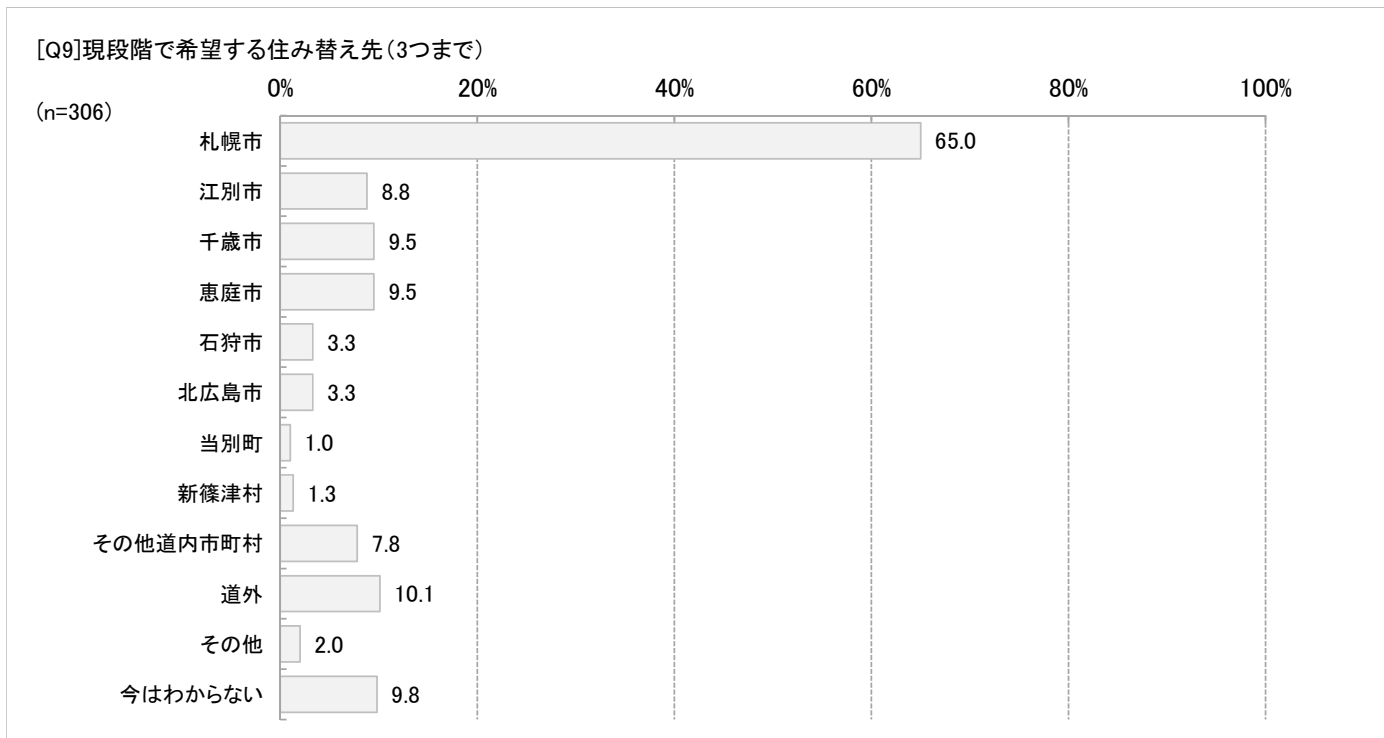
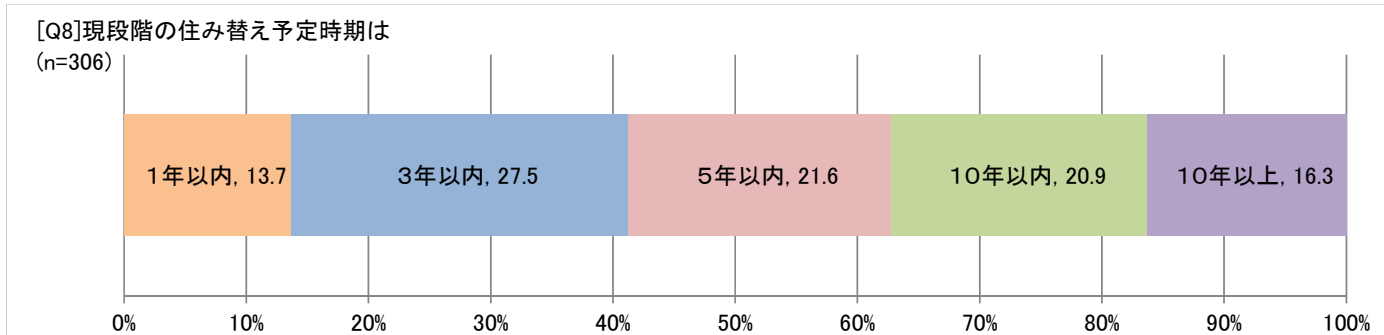
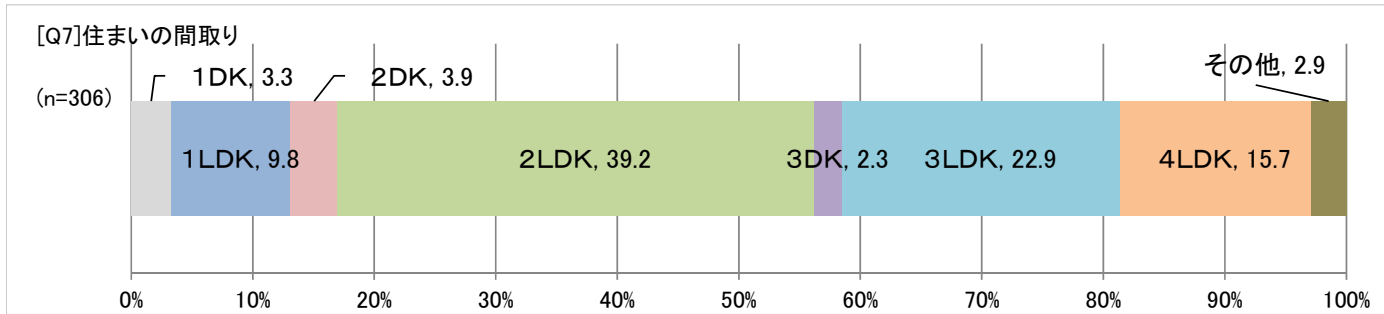
- ・持ち家（戸建て）が約半数、その他、民間賃貸住宅（マンション・アパート）、戸建て（マンション）が1～2割。
- ・持ち家（戸建て）は30代前半、家族世帯が多く、民間賃貸住宅は20代、夫婦世帯が多い傾向。

⑤ 住み替え時に重視する点

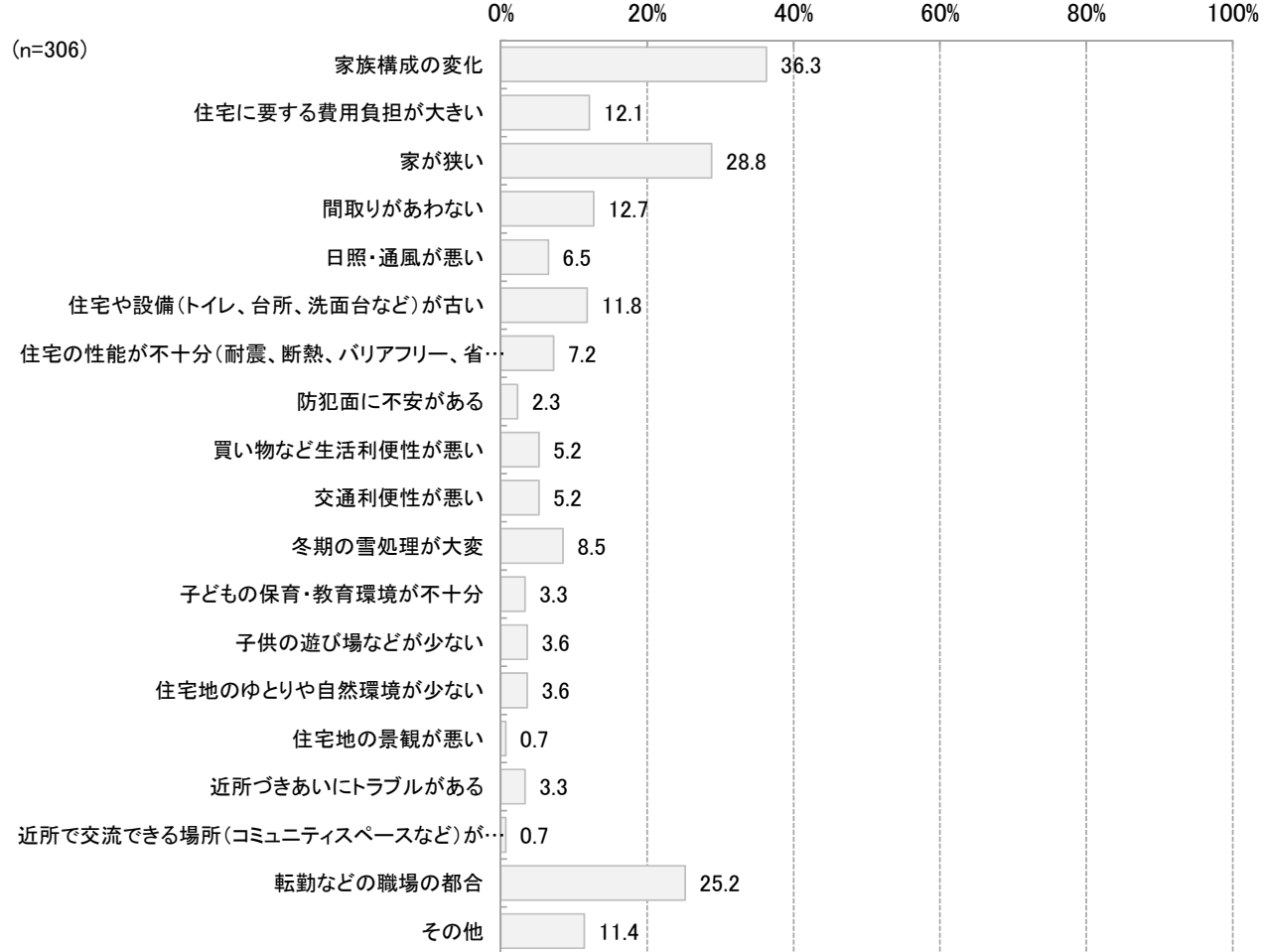
- ・住宅の広さ・間取り（約7割）、生活利便性（約半数）、住宅設備（約3割）が主なものの。
- ・40歳未満では住宅の広さや設備、性能等と子育て環境を重視し、40歳以上では、雪処理、住宅地のゆとりや自然環境、近所づきあい等を重視するなど、年代によって重視する点が異なる。

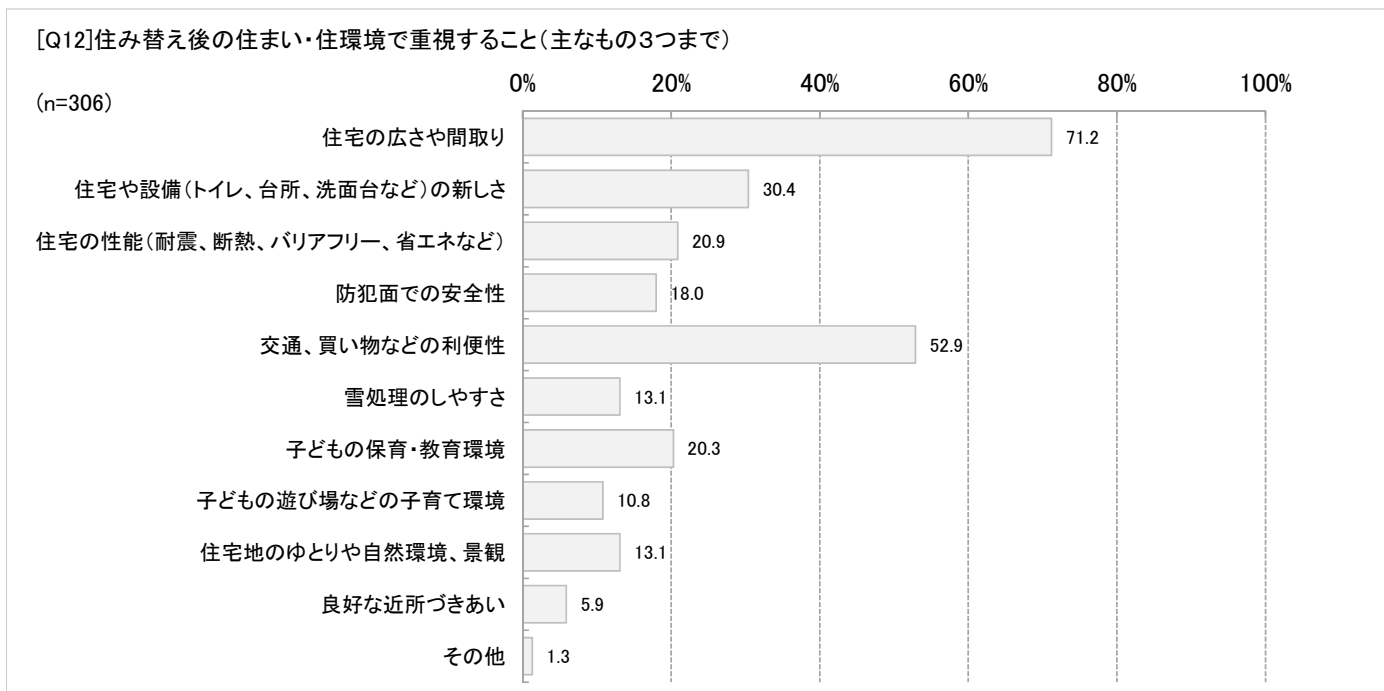
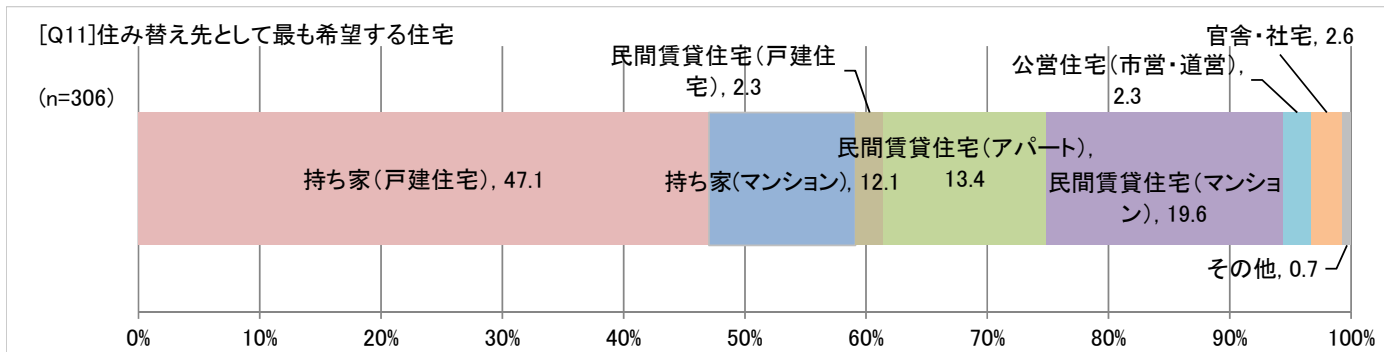






[Q10]住み替える際の理由(主なもの3つまで)





3. 北広島団地地区への住み替え等

①団地地区の評価

- ・評価が高いのは、住宅地のゆとりや自然環境・景観。その他、教育、子育て環境についても評価が高い。
- ・30代後半では比較的利便性について評価が高い。

②住み替え先として考える場合重視する点

- ・交通・買い物等の利便性が最も重要視される。
- ・20代、30代前半は利便性をより重視し、小さい子どもがいる世帯、家族世帯では子育て・教育環境を重視。

③住み替え支援に必要なこと

- ・費用負担の支援（約8割）、物件情報（約4割）、子育て・教育環境に関する情報（約3割）が主なもの。
- ・属性により必要な支援の傾向は変わらない。

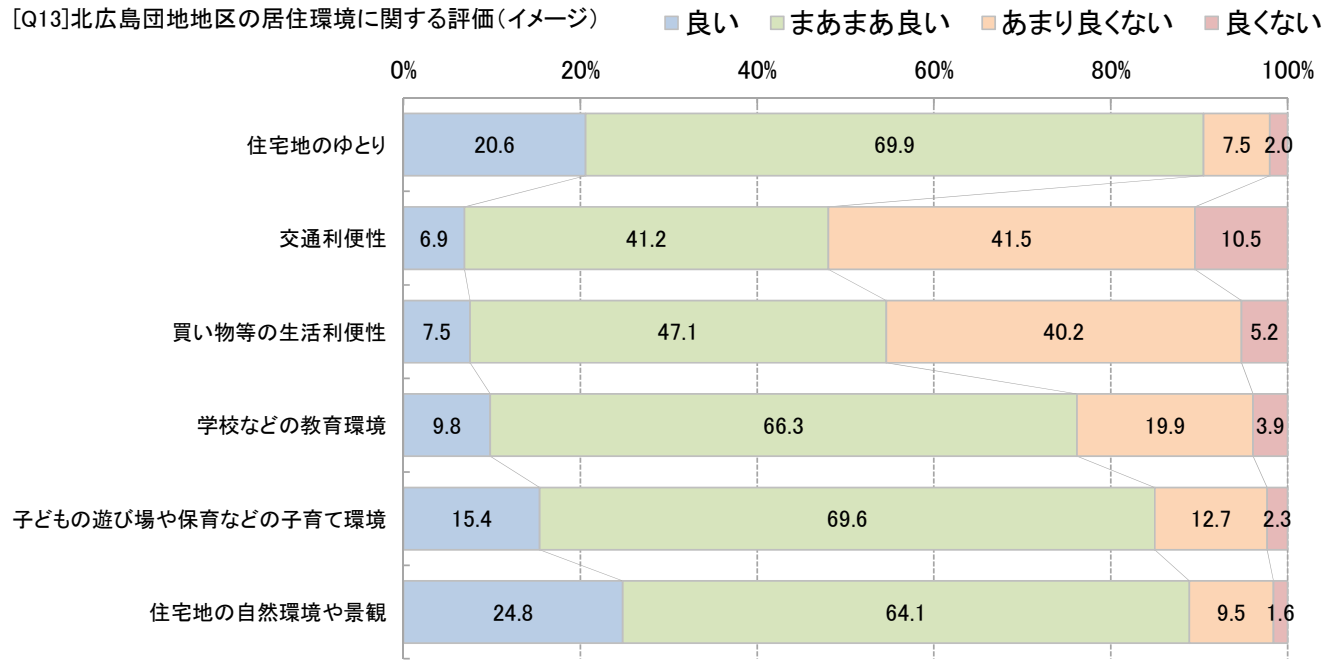
④ファーストマイホーム支援制度の認知度

- ・認知度が低い（全く知らないが約9割）。

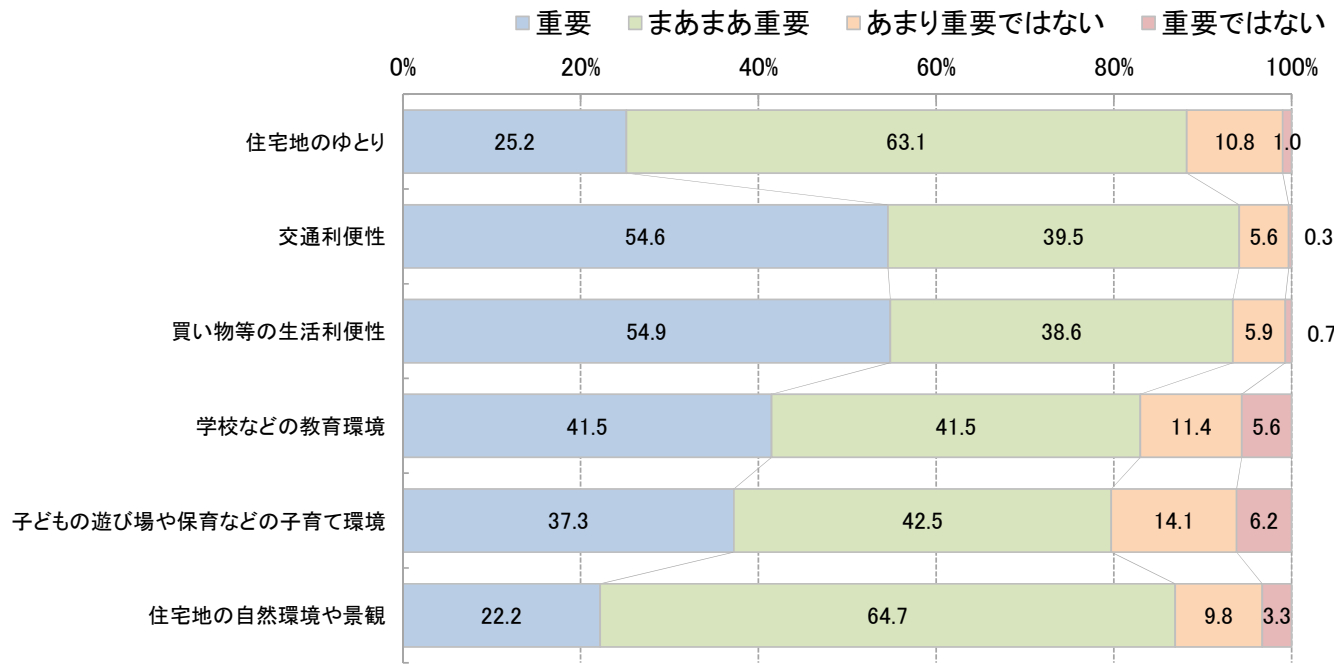
⑤支援が実現した場合の住み替え意向

- ・条件が合えば住み替えたいという回答が約4割。
 - ⇒40歳未満が約7割
 - 家族世帯が約6割で夫婦世帯が約3割
 - 3歳未満の子どもがいる世帯、子どもがいない世帯がそれぞれ約3割
 - 江別市、恵庭市、千歳市の居住者が比較的多い
 - 住み替え時期5年以内が約6割
 - 札幌市、江別市、千歳市、その他道内への住み替え希望者が多い
 - 持ち家（戸建て）を希望する世帯が約半数、賃貸希望が約3割
 - 子育て環境や住宅地のゆとり・自然環境などを重視する傾向
- ・住み替え意向への影響度についての分析結果
 - ①住宅地のゆとり、自然環境や景観：重要度は高くないが意向への影響度が高いため、団地地区の良好な環境についての情報発信等を積極的に行うなどの対策が必要
 - ②子育て環境、教育環境：影響度・重要度ともにそれほど大きくないが、特に若い世代にとっては重要度が高い項目であるため、環境の改善や情報発信などの対策が必要
 - ③交通・生活利便性：重要度は高いが意向に対する影響度が小さいため、環境の維持、向上に努める

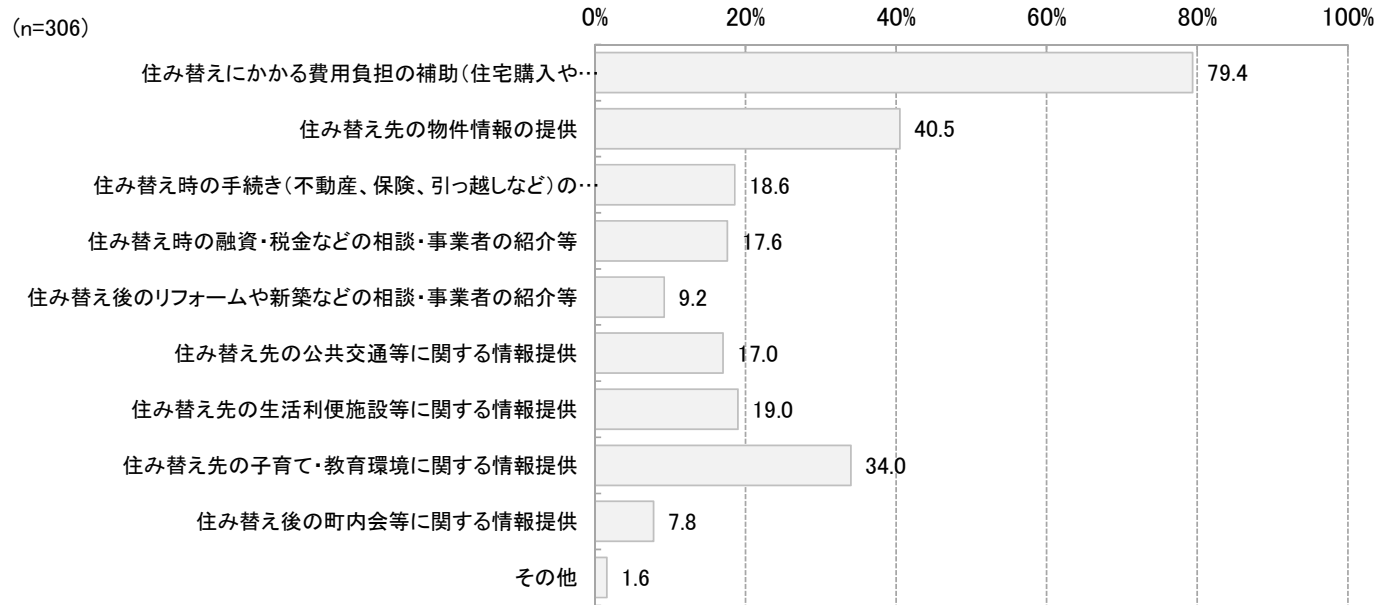
[Q13]北広島団地地区の居住環境に関する評価(イメージ)



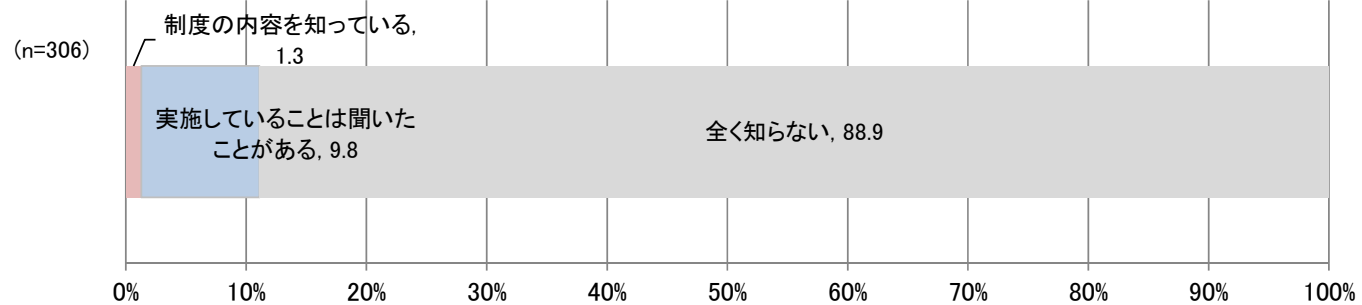
[Q14]北広島団地地区を住み替え候補地として選択すると考えた場合の重要度



[Q15]北広島団地地区に住み替えるとした場合、必要と思われる支援(主なもの3つまで)



[Q16]北広島市のファーストマイホーム支援制度の認知度



[Q17]必要な支援が実現した場合の北広島団地地区への住み替え意向

